

「水害を経験して」

私は水害を経験したことでした。たかさんの事を学ばしました。避難勧告が発令されたとき、家には私とお母さんとおばあちゃんしかいませんでした。三人で一階の荷物をできるだけ二階にあげました。その時に地区の消防団の人が、「もう避難して下さい」と言いに来てくれました。その時にはもう水がひざまでできて、長ぐつをはいても意味がないくらいでした。風も強く、雨も降っていたので私がお

ばあちゃんの手をしっかりと握って、避難所の体育館につれていきました。避難所には、多くの人がいました。その中には友達もいたので、強かったです。

夜になって突然、停電しました。小皿に口ウソクを立て、配給された毛布をひいて寝ようとしても、体育館の中はとても寒くて、なかなか寝れませんでした。

次の日、水はいつのかなくなっていました。でも、水と一緒に流れてきた泥が道路

いっぱいにひろがっていました。私は友達と一緒に自分達の家を見に行きました。家の中は、倒れたタンスや食器棚、畳などがぐちゃぐちゃの状態でした。親からの話によると、2mぐらい水につかっていたそうです。

その日から家の片づけがはじまりました。私の部屋の家具はみんな泥まみれで、使いようがなくなっていました。友達が手伝いに来てくれることもありました。今では家も新しくなり、その時の面影はまったくありません。

私は水害があったことを決して忘れてはいけないと思います。でも、それだけではなく、はじめて水害を経験して分かった、食べ物や水の大切さ、手伝いに来てくれた友達への感謝の気持ちも一生忘れてはいけないと思います。

今度、このような災害があったら、自分に何が出来るのか、考えていきたいと思っています。